

園内ルートマップ

2月中旬～3月上旬おすすめコース

《詳細説明》

つばき園

植物園北部の「つばき園」では、京都の奇蹟にも残る椿、江戸時代からの品種、秀吉らの愛でた椿など、約250品種の100本を植栽しています。他、地系統の椿が揃っているほか、「光源氏(ヒカルゲンジ)」や大輪の「霞(アケボノ)」など見どころが多いです。品種が多いので、一度に満開とならず、かわるがわる花が咲いて長く楽しめます。某人・織田有楽斎(織田信長弟)が愛したという「有楽(ウラク)」は、おまかに香りがあり、花を皿に載せて蒸籠を被せ、茶碗をとった開きの香りを楽しんだと言われています。

梅苑

植物園内には二つの梅のスポットがあります。北山門から見えるエリア(梅林I)には、枝垂れや、花は白いがガクが緑のため、遠目には緑っぽく見える「緑萼梅(リョクガクバイ)」があります。園内中央部にある梅林(梅林II)では、飛び梅で知られる「色玉垣(イロタマガキ)」を始め、早咲品種、咲き分け品種、枝垂性など約80品種、100本が12月から翌3月まで咲き続けます。ほのかな梅の香や多様な色に春の到来を期待される多くの来園者をお迎えします。

植物生態園

京都府開府100年記念として造成した日本の森・植物生態園は日本各地の山野に自生する植物を生動的にできるだけ自然に近い状態で植栽しています。総面積15,000平方メートル。早春にはセツブンソウ、春にはクリンソウ、初夏にはハンゲショウ、夏にはキキョウ、秋にはフシカマなどの絶滅危惧種も植栽展示しています。また、水辺と海辺に生育する植物については、それぞれ湿地と砂地をつくり植栽しています。四季それぞれに移り行く草木の可憐な姿に、なつかしいふるさとの山川を思い浮かべ、豊かな心の糧となることを期待しています。植栽植物種数:約1,000種類。

「早春の草花展」

寒さが残る早春に、色鮮やかな100種10,000株の春の草花を咲かせます。底冷えの厳しい京都の冬。外は冬景色でも、特設会場の中は春。2月中旬からひと月あまり、大芝生地北側に延長100メートルの花の小道ができます。植物園ならではの展示でかわしい香り、目にも鮮やかで美しい花々が来園者を出迎えます。

① **ツバキ** | 品種名:有楽 (ウラク)
Camellia japonica 'Urak'



古典椿の代表的な品種。江戸時代から命名されており別名は「太郎冠者」と呼ぶ。淡いピンクの花色と比較的早い時期に咲くのが特徴。織田信長の弟で茶人でもあった織田有楽斎長益が、茶の湯の際に好んで用いたと伝えられていることが品種名の由来。

② **ツバキ** | 品種名:日光 (ニツク)



1739年の「本草花蒔絵」という書物に「唐子」として載っている古い品種で関東では「紅唐子」中部では「紅ト伴」と呼ばれる。京都では日光(ト伴)と対して「日光」として親しまれています。一重、唐子咲き。

③ **ウメ** | 品種名:緑萼梅 (リョクガクバイ)



花弁の根元にある萼が緑色であることが特徴で、このことが逆光で観察する花を、清楚で凛とした雰囲気に見せる。育輪性とも呼ばれる品種群のひとつ。

④ **ウメ** | 品種名:色玉垣 (イロタマガキ)



学問の神様として知られる菅原道真「東風吹かば…」の和歌で有名な飛梅伝説の梅は本品種。当園の個体は太宰府天宮の原木からの繁殖株。
※飛梅伝説
道真が、大宰府に左遷された時に、道真を慕う藤の梅が一夜のうちに太宰府まで飛んでゆき、その地に降り立ったという伝説。

⑤ **シナマンサク**
Limnoidis mollis



中国中部原産で、マンサクの仲間では最も大きな花をつける。早春に「先ず咲く」ことが由来の日本のマンサクよりもさらにはやく開花する。クスノキ並木の個体は昭和16年2月に植栽した園内最古クラス。

⑥ **バイカオウレン**
Cypripedium japonicum



日本固有種で、本州の福島県以南と四国に分布する。白い花弁に見える部分は萼片で、ほんとうの花弁は重瓣に退化しており、黄色く目立つ。5つに分かれた葉の形から、ゴカヨウオウレン(五加葉黄連)とも呼ばれる。

⑦ **ハナノキ**
Acer japonicum



日本の固有種で、長野県南部・岐阜県南部・愛知県北東部の3県県境の山間湿地に自生する。秋の紅葉も素晴らしいが、カエデの仲間で見ると春の花も鑑賞に堪える。三井倶楽部からの寄進と伝わる個体。

⑧ **ミツマタ**
Edgeworthia chinensis



枝が三つに分岐することが和名の由来。黄色い小さな花が球形に集まって咲く様子が特徴的で芳香もある。ひと花をよく観察すると四枚の花弁のように見えるが、萼が反り返ったもので花弁はない。和紙の材料となる。

⑨ **セイウハシバミ**
Corylus asiatica



ヨーロッパ大陸から地中海域が原産。早春に花を咲かせ秋に結実する。種子はヘーゼルナッツ(Hazelnut)と呼ばれて食用となり、クッキーやケーキなどの材料としてよく使われる。

⑩ **カンヒザクラ**
Cerasus cerasifolia



台湾と中国南部に分布するサクラ。一般的な花見の対象となる染井吉野などのサクラの南限が鹿児島県なので、さらに南の奄美大島や沖縄ではこのサクラを花見の対象とする。濃い色で釣り鐘状の花。

⑪ **ロウバイ**
Chimonobai japonica



江戸時代に渡来した中国原産の落葉高木。ウメと同じ時期に淡黄色の細工のような花をつけることと臘月(ろうげつ:旧暦12月)に咲くことにちなむ和名。強い芳香がある。

⑫ **サンシュユ**
Camellia sasanqua



別名でハルコガネバナ(春黄金花)と呼ばれるのは、早春に黄金色の花を樹冠いっぱい咲かせる姿からきている。秋には赤いグミのような実をつけることから、秋珊瑚(アキサンゴ)の別名もある。中国原産で江戸時代享保年間に朝鮮経由で渡来した。

⑬ **オニグルミ**
Juglans mandchurica var. mandchurica



日本に自生するクルミ属で食用となるのは本種だけ。本州北部の沢などに分布する。果実の殻はスタッドレスタイヤの素材になるほど堅い。葉が落ちた後の葉痕(ようこん)はユニークな形状をしており、羊の頭のように見える。

⑭ **ヤマコウバン**
Linnaea japonica



中国、朝鮮半島、日本(関東地方以西の本州、四国、九州)に分布。枝を折るとよい香りがすることが和名の由来。冬にも枯れ葉が落ちないことが特徴で、このことから合格折願の御利益があるとともいわれ愛護生がお守りとする。

⑮ **フクジュソウ**
Adonis vernalis



春を告げる花「スプリングエフェメラル(春の妖精)」の代表でもあり、元日草(がんにつそう)や朔日草(ついたちそう)の別名もある。縁起物の植物として江戸時代に広く栽培され、多くの園芸品種を生み出した。
※京都府絶滅寸前種

⑯ **セツブンソウ**
Eranthis japonica



日本固有種で、温帯夏緑林の林内や山すその半日陰地などに自生する。和名は春早くに芽吹き、節分の頃に開花することが由来で「節分草」と表記する。
※京都府絶滅危惧種

⑰ **オオカメノキ**
Fibrium japonicum



初夏にアジサイに似た花を咲かせるガマズミの仲間。葉がよく虫害を受けるため「虫食われ」が転じてムシカリの別名がある。茶花として用いられる。冬芽がウサギの顔のようで(耳が葉芽、顔が花芽)特徴的。

⑱ **ウグイスカグラ**
Limonium japonicum



淡いピンクの小さな花が特徴で、爽しい雰囲気から茶花や盆栽としても人気の落葉性低木。日本固有種で本州の中西部、四国および九州に自生する。

⑲ **フキ**
Ficaria verna



山野に生える早春の山菜としてよく知られ、花茎をフキノトウ(蕾の蓋)と呼び天ぷらなどにする。葉柄の側葉は「きやらぶき」(仙履草)といい、これも保存食・常備菜となる。

⑳ **コショウノキ**
Dryopteris crassirhiza



ジンチョウゲ科の常緑低木で実がコショウのように辛いことから和名が付いた。花は枝先にかたままって着きうすらと芳香がある。

㉑ **キンキマメザクラ**
Cerasus indica var. kinkienis



マメザクラの変種で花柄は短く(1~1.3cm)ほぼ無毛で、萼筒が長いのが特徴。染井吉野より早く咲き、下向きに咲く花付きも良いことからよく栽培される。